



力強いストロークを放つ三枝さん

輝いています

全国選抜ジュニアテニス選手権大会ベスト16

# ひと

三枝 夏子 さん

## プロテニス選手を目指して

**5** 月14日、千葉県柏市で行われた全国選抜ジュニアテニス選手権で躍動していたのは、西小学校6年生の三枝夏子さん（11歳・錦町）。U-12女子シングルの部でベスト16まで進出しました。スクールで本格的にテニスを始めたのは5歳のとき。かつて全国大会で活躍した母や叔母の影響がありました。やがて、練習を積んで強敵に勝つ達成感のとりこに。蕨戸田衛生センターのコートでの自主練習なども重ね、県内屈指のジュニア選手に成長します。そして昨年には、より高いレベルを目指し、強豪が集う「TENNIS SUNRISE 朝霞」に入校。年上の

速い球に食らいつづき、体幹や敏捷性を強化するとともに技術を磨きます。「いちばん弱かったので必死でした」と振り返る努力は実り、関東代表に選ばれる成績を収めました。三枝さんの得意プレーはラリー戦。全国選手権でも相手を揺さぶり、チャンスボールを着実に決めて1回戦を突破します。しかし、ベスト8をかけた2回戦で戦った格上の選手には、相手を動かす自分のプレーが思うように通じず、苦杯をなめました。

失敗を恐れずにラケットを振り抜くメンタルと、フットワークの向上が課題と感じた三枝さん。食事や練習などで家族のサポートを受けながら、感覚を養えるよう毎日3時間以上はコートに向かいます。原動力となるのは、全国で更に活躍したいという願いです。県内には同年齢のライバルがたくさんいますが、「一つでも多く勝てる強い選手になりたいです」と意気込みます。

その先に描く未来は、大坂なおみ選手のようなプロテニスプレイヤーになること。自分の可能性を信じて一心に練習に打ち込んだ先には、夢が現実となる日が来るでしょう。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

—No.61—



暁斎筆「鯉の滝登り」 紙本色摺 錦絵

中国では、黄河上流にある険しい流れ「龍門」を登りきった鯉は龍に変身するという伝承があります。日本でも「登龍門」という語が立身出世の故事となったことから、鯉はおめでたい魚とされ、端午の節句には鯉幟を飾ることも知られています。暁斎には鯉が滝を登る姿を描いた作品が多数残っていますが、本

図はそのなかでも版画二枚をつなげた大きさを生かし、しぶきを上げてダイナミックに滝を登ろうとする鯉の姿が印象的な作品です。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

### 河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎鯉づくし—四季の風物とともに—」展 同時開催 「英国の子供たちの見た暁斎」展

開館 = 午前10時～午後4時  
休館 = 火曜日、木曜日、毎月26日～末日  
ところ = 南町4-36-4  
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円  
小・中学生300円 65歳以上500円  
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください  
詳細 = 同館 ☎441-9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご覧ください

